「炬火おくり」について

岸田國士

青空文庫

私がフランスの現代戯曲にはじめて接したのは、この「炬火おくり」である。もう二十何年か前のことである。私はこれを今の京大教授D博士の前で、おそるおそる訳した。むろん教へを受けるためであつた。

その後、巴里でこの戯曲がコメデイ・フランセエズの上演目録に加へられたのを知つて、わざわざ見に行つた。そして、新たな感動を受けた。新たなといふ意味は、当時、巴里の演劇革新派は、エルヴイユウの名を既に見向きもせず、私も亦、時代は変つたと、早くもこの「新古典主義」作家の作品を行李の底にしまひ込んだ頃であつたから。

しかし、この「炬火おくり」の舞台は、面白かつた。それに、私がフランスで見た芝居のうち、こんなに見物のシユウシユウ泣く芝居を見たことはない。しかし、これが、フランスの最も「健全な見物」なのである。

エルヴイユウの名声は、もちろん、この「炬火おくり」によつて頓にあがつたわけであるが、初演の時、女王人公サビイヌに扮したレジヤンヌ夫人は、また当代随一の名女優であつた。さて、この戯曲を、今は、わが国の舞台にかける意義について考へてみたいが、これは、文学座の新しい企画スタツフの良心と抱負とを信用して、私はたゞ、訳者として一言紹介の言葉を費すに止めよう。

「炬火おくり」は、演劇史的に云へば、フランス十九世紀末の頽廃的自然主義舞台の氾濫のなかから、ロスタンの「シラノ」と共に、力強い理想主義の大旆をかゝげて堂々と生れでた画期的な作品である。アカデミツクと云へばこれくらゐアカデミツクな作品はないが、そこがまた、時代が時代ならば、新鮮で、厳粛な感銘を与へ得るといふ一つの見本であらう。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集24」岩波書店
　　1991（平成3）年3月8日発行
底本の親本：「『文学座第9回試演』パンフレット」
　　1940（昭和15）年2月22日発行
初出：「『文学座第9回試演』パンフレット」
　　1940（昭和15）年2月22日発行
入力：tatsuki
校正：門田裕志
2010年1月20日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

「炬火おくり」について

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/